

「三刀流」の包丁さばきで辞書メディアを使い分けよう

——冊子辞書・電子辞書・辞書アプリの共存をめざして

関山健治



■はじめに

冊子辞書、電子辞書専用機、オンライン辞書、スマートデバイス向け辞書アプリなど、辞書メディアの多様化が急速に進んでいる。英語教員でさえ冊子辞書を使ったことがない者が珍しくない今では、様々な辞書に親しみ、必要に応じて使い分ける技能を身につけるといふ、自主トレならぬ「辞書トレ」に励む必要がある。

本稿では、冊子辞書、電子辞書専用機、辞書アプリのそれぞれにおいて、「オンリーワン」の辞書や機能を紹介し、英語の先生方がふだんの教材研究や授業の際にどのように辞書と関わっていけばよいか、考えてみたい。

■冊子辞書で「易しく、深い定義」に親しむ

OALD や *LDOCE* といった学習英英辞典は、定義に用いる語を制限した平易な語義で定評があり、英語で授業をする際の教材研究においても手放せない。一方、易しい単語を組み合わせで定義されているため、まだるっこしい説明になってしまったり、専門的な語の場合、「かゆいところに手が届かない」曖昧な定義になってしまうこともある。

たとえば、ear を *OALD 9* で引いてみると、“either of the organs on the sides of the head that you hear with” となっているが、これでは、聴覚器官という、耳の機能の一部しか説明できていない。一方、*Merriam-Webster's Collegiate Dictionary* のような成人の英語母語話者向け辞書は、専門用語を使って厳密に定義されており、

英語教員でも使いこなすのは難しい。

このようなときは、英語母語話者の小学生を対象にした英英辞典を引いてみるとよい。*Merriam-Webster's Elementary Dictionary* では、“the organ of hearing and balance of vertebrates that in most mammals is made up of an outer part that collects sound, a middle part that carries sound, and an inner part that receives sound and sends nerve signals to the brain” のように、外耳・中耳・内耳の区別をし、聴覚に加えて平衡器官の働きも持つことなど、平易な語を使いつつも、的確で深みのある定義がされている。

電子辞書化され、日本人にもなじみのある *OALD* や *LDOCE* と違い、英語圏のこども向け辞書は、日本ではあまり知られていないが、欧米の小学校では広く普及しており、大きな洋書店や Amazonなどで購入することができる。学習英英辞典と、成人英語母語話者向けの英英辞典の間を埋める英英辞典として、英語教員の座右に置いておきたい冊子辞書の一つである。

■電子辞書専用機を「どこでもコーパス」に

英語教員にとって、電子辞書専用機は単なる「冊子辞書より早く引ける辞書」ではない。例文検索を使い、辞書全体から必要な用例を検索するなど、冊子辞書にない機能を活用している先生方も多いだろう。もっとも、冊子辞書に必要な用例が載っていなければ、例文検索も無用の長物となる。受験指導をする際など、辞書に載っていない

用例もたくさん見たいと思う方も多いのではないだろうか。

カシオの電子辞書専用機の一部には、英語母語話者向け英英辞典の *Oxford Dictionary of English (ODE)* とともに、*Oxford Sentence Dictionary (OSD)* という用例コーパスが搭載されている。OSD は、ODE に収録されている膨大な語義に用例を補い、属性（地域、分野、媒体）とともに検索、表示される。そのため、外来語や専門語など、通常のコーパスでは見つからないような語が使われている例も多くヒットする。たとえば、寿司についてくるワサビを英語で説明したいときは、OSD で wasabi を検索すると、... wasabi, a super-hot green horseradish, and dipped in soy sauce... のような例がヒットし、あのツンとする強烈な辛みが super-hot という一語で表現できることに気づくだろう。通常のコーパスと違い、比較的短くてコンテキストがはっきりした用例が多いのも、多忙な英語教員にとっては重宝する。

大量の用例をネットから集め、その中から授業ですぐに提示できるような用例を選別するのは骨が折れるが、電子辞書専用機の OSD を使いこなせば、「どこでもコーパス」として、出勤途中の電車の中でも約100万の膨大な用例に手軽にアクセスすることができる。

■辞書アプリで、辞書全体を「家宅搜索」

ジーニアス英和・和英辞典は、冊子辞書だけでなく、電子辞書専用機や辞書アプリでも引くことができるが、手にとってすぐに引ける冊子辞書や電子辞書専用機と違い、辞書アプリは起動操作に時間がかかるため、受験勉強のように頻繁に辞書を引くという用途には向かない。

一方で、辞書アプリならではのマニアックな機能を使いこなせば、冊子辞書や電子辞書専用機では不可能なことも調べられる。全文検索はその一つで、入力した語句が含まれる箇所をジーニアス

英和・和英辞典のデータ全体から「家宅搜索」して見つけ出すことができる。

たとえば、「ぺちゃくちゃ（しゃべる）」を英語で何というか知りたい時、たいていの人は和英辞典で「ぺちゃくちゃ」を引き、chatter であることを知って満足するであろうが、全文検索を使うと、英和、和英両方の訳語や用例訳の中から「ぺちゃくちゃ」が含まれる箇所が表示されるため、burble, clatter, quack, yap といった硬軟様々な語がヒットする。

裏技的な使い方であるが、一部の辞書アプリでは、日本語と英語を組み合わせて全文検索することもできる。たとえば、fine が名詞の「罰金」の意味で使われている用例を探したい場合、例文検索で fine を入れて検索すると、膨大な形容詞の例の中から名詞の用例を探す必要があり、日が暮れてしまうだろう。このような時は、全文検索で「fine 罰金」のように入れると、名詞の用例のみが検索される。多義語や機能語などで特定の語義の例文を探したい時に、日本語と英語のキーワードで「はさみうち」すれば、あっけないほど簡単に見つけられる。

■おわりに

タブレットの教育現場への本格導入が秒読みとなり、今後は辞書アプリが急速に普及するであろうが、冊子辞書や電子辞書専用機のように、思いついたときにすぐに引ける辞書の良さも忘れてはならない。冊子辞書・電子辞書専用機・辞書アプリの「三刀流の包丁さばき」を身につけ、辞書メディアの変化を楽しむ余裕を持ちたいものである。

◆参考文献

関山健治. (2007) 『辞書からはじめる英語学習』小学館.

——. (近刊) 『英語辞書マイスターへの道』ひつじ書房.

(せきやま けんじ・中部大学准教授)